

# 富良野市における調査結果の概要

令和4年9月 富良野市学力向上推進プロジェクト

令和4年度全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果について公表します。

本市では、第1次富良野市教育振興基本計画の基本理念「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」のもと、教育の原点である知・徳・体の調和のとれた子どもたちの着実な育成を基本に「すべては子どもたちのために」を合い言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

全国学力・学習状況調査の結果は、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、今後の本市の教育施策や学校の実践に生かしながら、本市教育を一層充実させてまいります。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

今後も、これまでの取組の成果を生かしつつ、児童生徒の確かな学びの定着に向けて着実な取組を継続するとともに、学校・家庭・地域が連携し学力向上に努めていきます。

なお、この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものではありませんので、序列化や競争につながることはないようご理解をお願いいたします。

## 1 調査の概要

### ◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### ◆調査日

令和4年4月19日（火）

### ◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

### ◆調査事項

- 児童生徒：教科調査(国語、算数・数学、理科)、質問紙調査
- 学 校：質問紙調査

## 2 教科に関する調査結果の概要について

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、「平均正答率を全国平均以上にする」ことを目標に掲げております。

### 【小学校】

国語は、全国平均正答率を上回りました。算数は、全国平均正答率と同等※でした。

理科は、全国平均正答率を上回りました。

### 【中学校】

国語は、全国平均正答率と同等でした。数学は、全国平均正答率と同等でした。

理科は、全国平均正答率と同等でした。 ※ 全国平均正答率との差が3ポイント以内

小学校第6学年では国語、理科で全国平均正答率を上回り、算数で全国平均正答率と同等、中学校第3学年では国語、数学、理科で全国平均正答率と同等という結果になりました。

また、小学校第6学年と中学校第3学年の経年変化の分析では、国語、算数・数学ともに全国平均正答率に近づくなど大きく改善傾向にあることが明らかになりました。

このことは、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、学校司書の配置による読書活動の推進、小中連携の取組、キャリア教育の推進、小規模校での個別最適化された学びの充実、教職員の加配による指導方法工夫改善の取組、特別支援教育支援員の配置、長期休業中の「学習サポート」による学習内容の着実な定着、「イングリッシュキャンプ」等による外国語教育の推進、演劇手法を取り入れたワークショップによるコミュニケーション能力の向上、デジタル教科書、電子黒板、タブレット端末等のGIGAスクール構想に基づくICT活用の推進による成果であると考えられます。

この調査結果を踏まえ、『第1次富良野市教育振興基本計画(令和4年度～令和7年度)』を基軸とし、学力向上に向けた質の高い教育活動が展開できるよう推進していきます。

### 『第1次富良野市教育振興基本計画(令和4年度～令和7年度)』

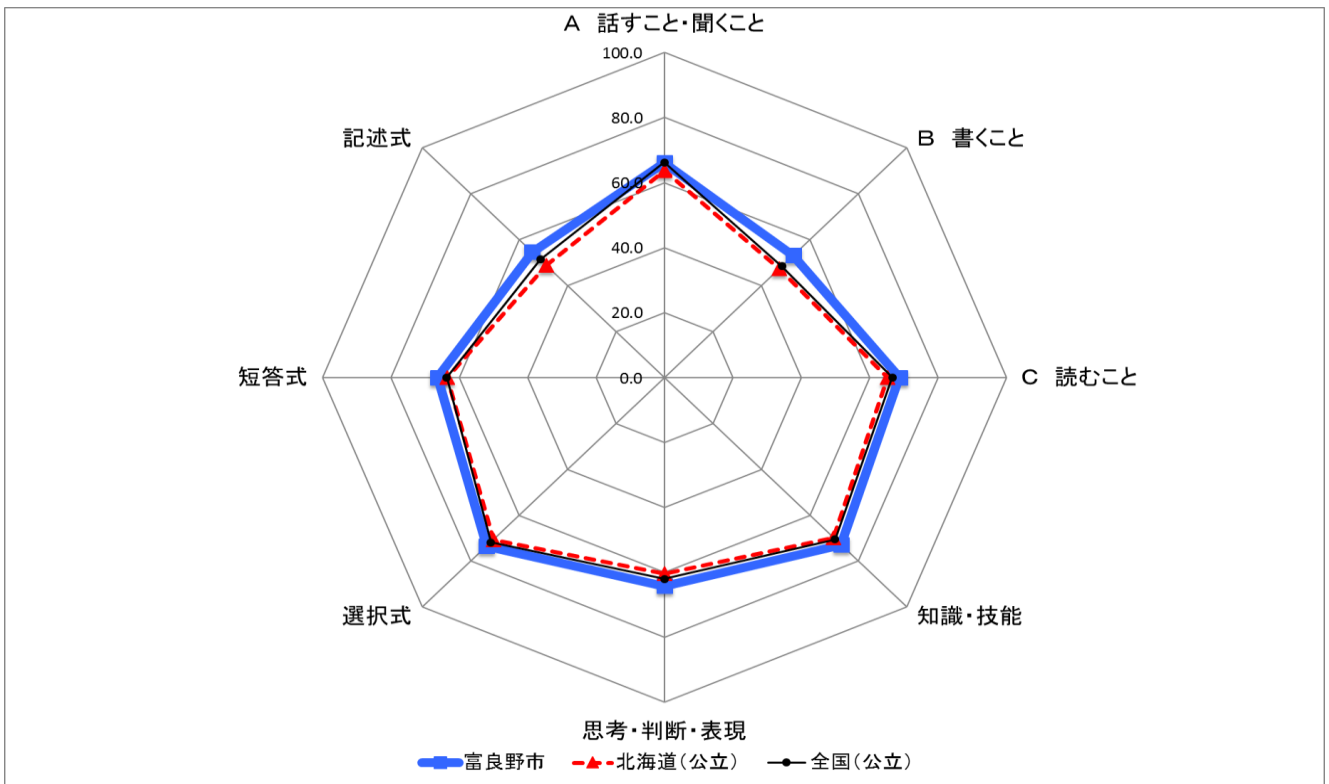
第1次富良野市教育振興基本計画(令和4年度～令和7年度)は、「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、策定された計画です。

子どもたちに変化の激しい時代を生き抜く力を育み、生涯にわたって活躍できる人材を育成することが求められていることから、第1次富良野市教育振興基本計画を策定しました。

### 3 各教科の領域別の状況

#### 小学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



#### 〈調査結果のポイント〉

- 知識・技能については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では全国平均正答率と同等であり、「我が国の言語文化に関する事項」では、全国の平均正答率を上回っております。
- 思考力・判断力・表現力等については、「話すこと・聞くこと」では全国平均正答率と同等であり、「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を上回っています。

#### ●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

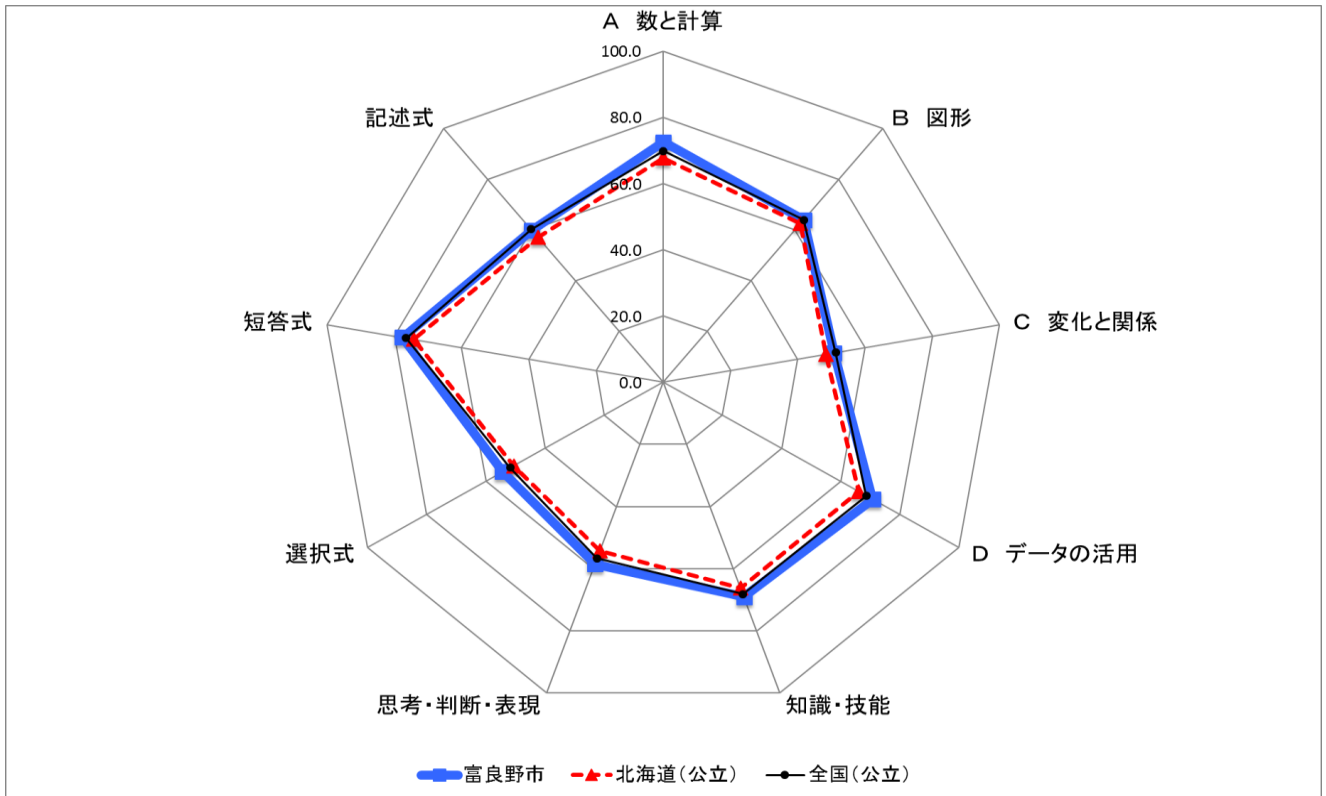
- 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題が見られます。



学習指導に当たっては、話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要です。

## 小学校算数

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



### 〈調査結果のポイント〉

- ・領域別の問題では、「A 数と計算」「D データの活用」の領域で全国平均正答率を上回っています。「B 図形」の領域では、全国平均正答率と同等であり、「C 変化と関係」の領域で全国平均正答率を下回っています。

### ●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

- 日常生活の場面に即して、数量が変わっても割合は変わらないことを理解していることに課題があります。

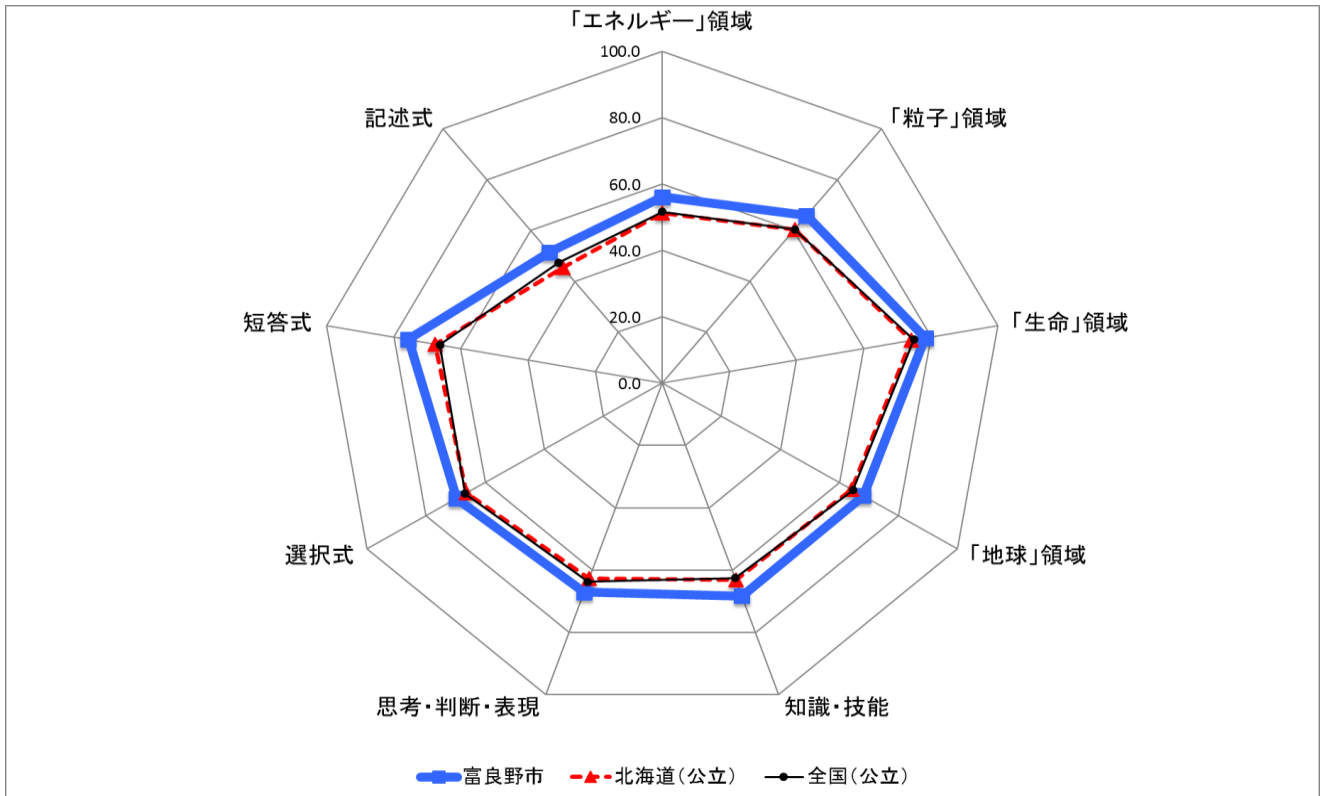


指導に当たっては、果汁が含まれている飲み物を二つに等しく分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起しながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合は変わらないと判断することも重要です。

- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題があります。



伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して、未知の数量を求めることができるようにすることが重要です。その際、表などに整理して、二つの数量の関係に着目できるようにすることが大切です。



### 〈調査結果のポイント〉

- ・領域別の問題では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全領域で全国平均正答率を上回っています。

### ● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

- 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題があります。

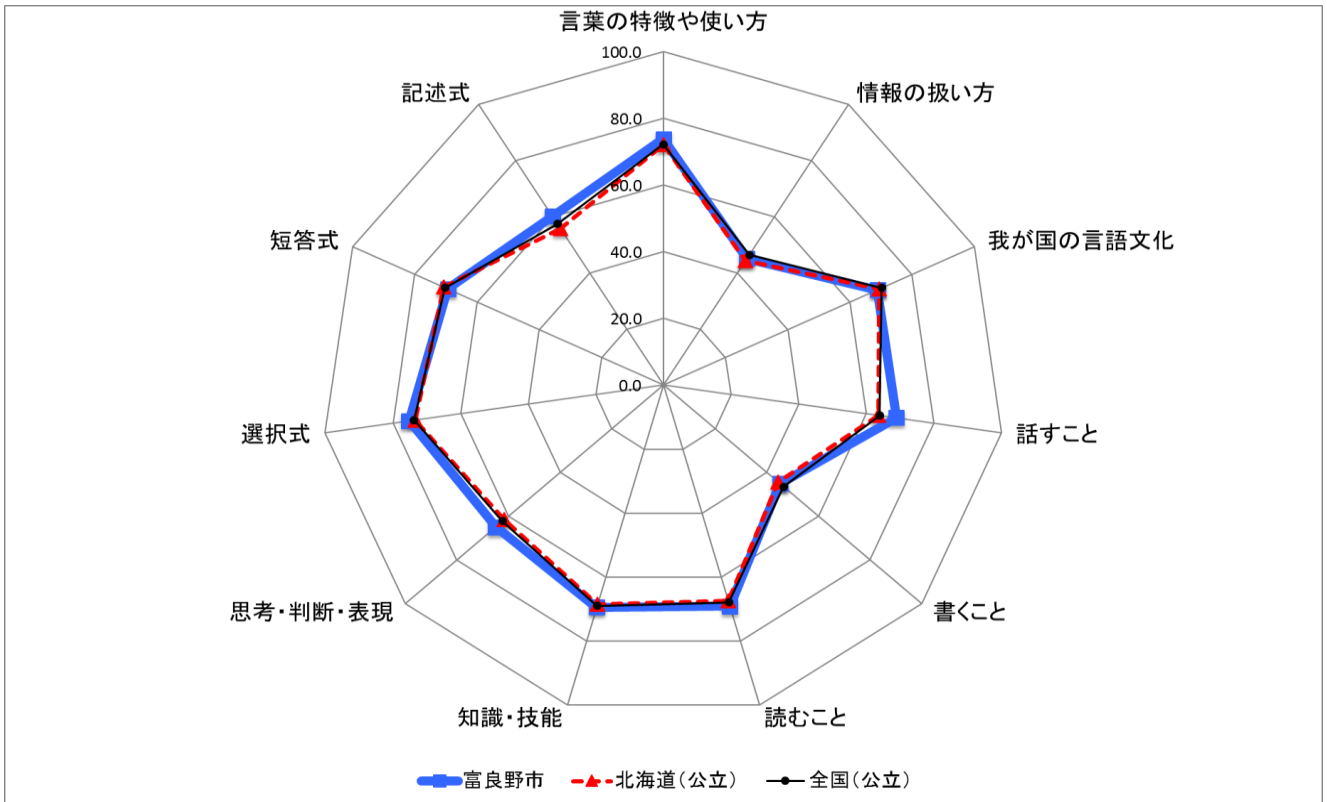


自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要です。

- 鏡を操作して反射させた日光を対象として、反射させた日光の進み方について、日光は直進することを理解していることに課題があります。



知識をより深く理解できるようにするためには、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにすることが重要です。



### 〈調査結果のポイント〉

○領域別の問題では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を上回り、「書くこと」、知識及び技能の領域で全国平均正答率と同等です。

### ●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題があります。

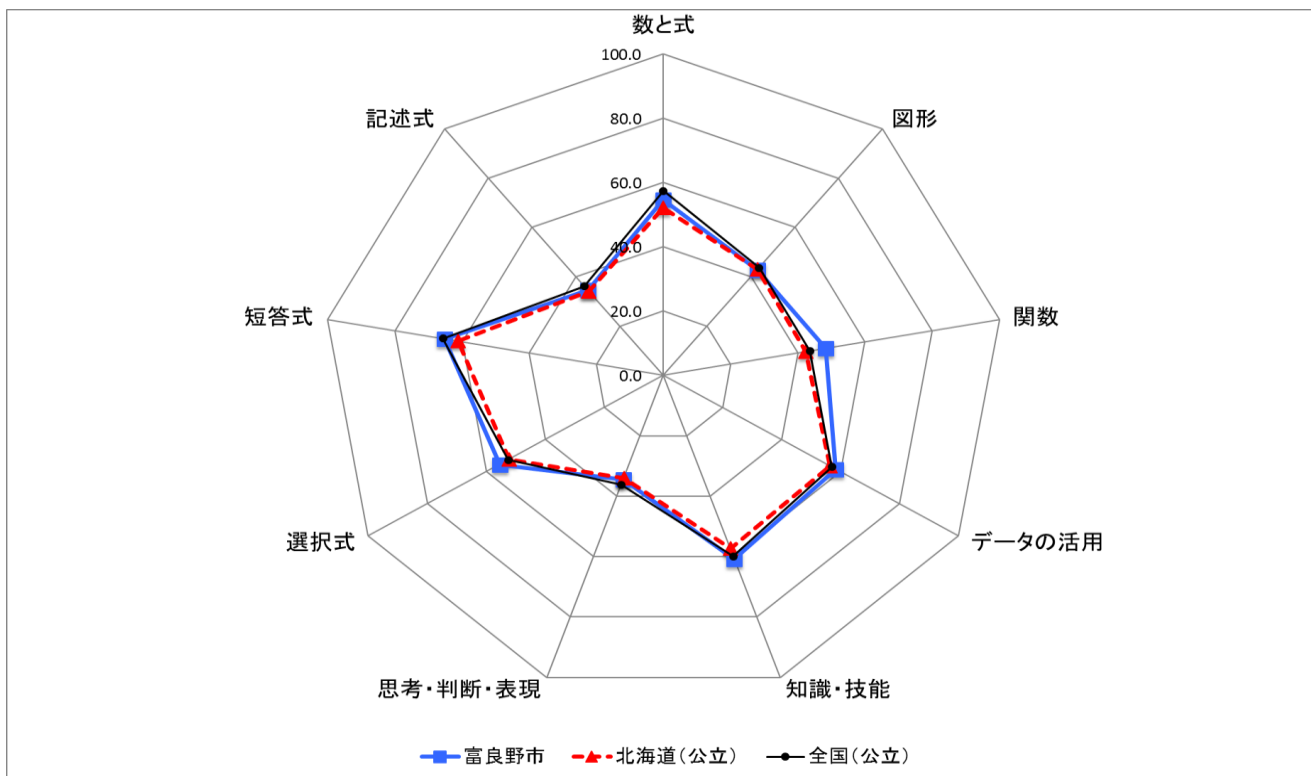


意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切です。そのためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要です。その上で、**自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要です。**根拠を記述するに当たっては、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられます。

○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題があります。



自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、**聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが重要です。**



### 〈調査結果のポイント〉

○領域別の問題では、「関数」の領域は全国平均正答率を上回っています。「図形」「データの活用」「数と式」の領域は全国平均正答率と同等です。

### ● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

○図形の合同について筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があります。

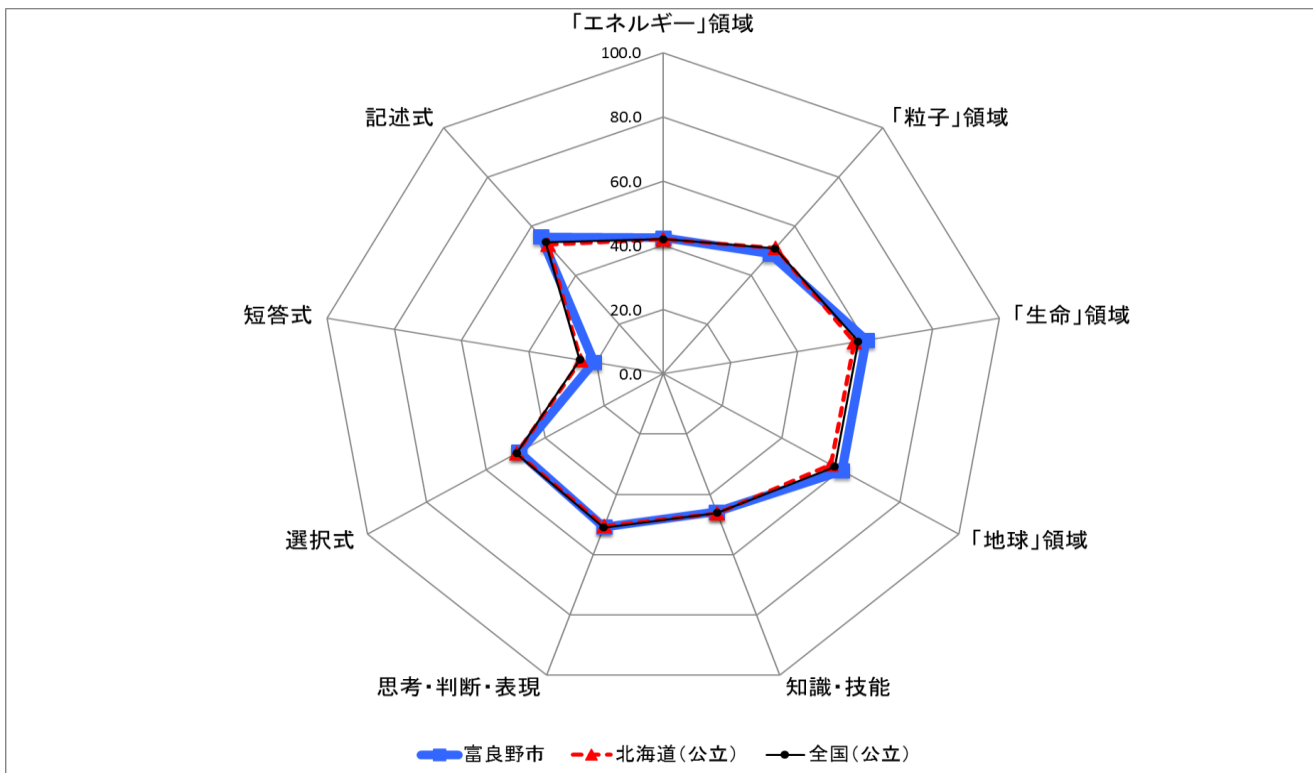


結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、数学的に説明できるように指導することが大切です。

○文字を用いた式について結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題があります。



数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察できるようにすることが大切です。



### 〈調査結果のポイント〉

○領域別の問題では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全領域で全国平均正答率と同等です。

### ●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

○科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題があります。



自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善することが大切です。指導に当たっては、**他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定し**、用いた観測データが自然の事物・現象と対応しているか、観測データの読み取りが適切であるかなどの視点を明示することが重要です。

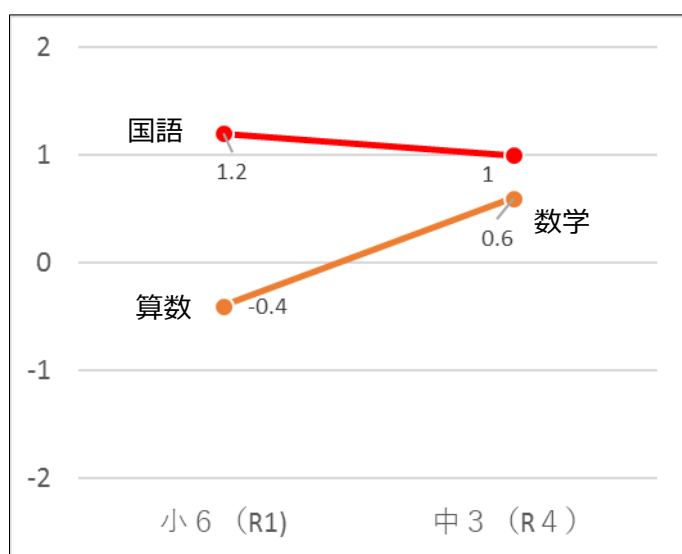
○水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈することに課題があります。



身近な現象を科学的に探究する上で、化学変化に関する知識及び技能を活用して、化学変化を粒子の保存性に着目し、分析して解釈することは大切です。指導に当たっては、**水の電気分解などの化学変化を原子や分子のモデルで表す学習場面を設定し**、化学変化に関係する原子の種類や数が変化しないことに気付かせ、原子や分子のモデルで表した複数の化学変化を比較し、粒子の保存性に気付くようにすることが重要です。



## 小学校第6学年(令和元年度)と中学校第3学年(令和4年度)の調査の比較



現中学3年生が3年前の小学6年生で受けた調査(国語、算数・数学)の平均正答率と全国平均正答率との差を比較してみました。小学6年生時点では、国語で全国平均正答率を1.2ポイント上回っていました。算数で全国平均正答率を0.4ポイント下回っていました。

今回の調査では、国語では全国平均正答率を1.0ポイント上回っていました。数学では全国平均正答率を0.6ポイント上回っており、小学6年生調査時より1ポイント改善しています。

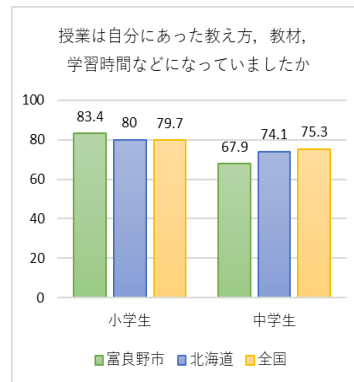
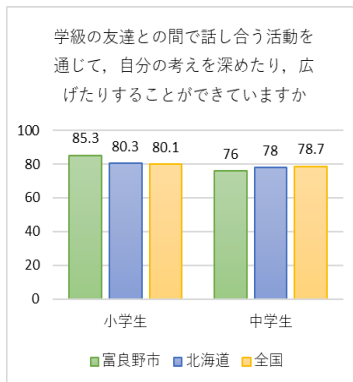
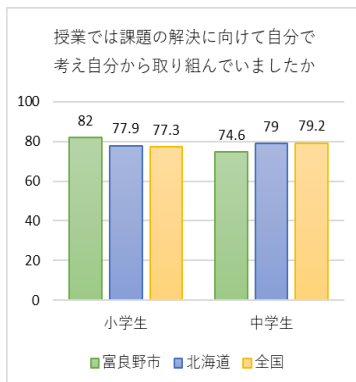
背景には、生徒の頑張りはもちろんのこと、中学校での教科担任制による専門的な指導に基づく授業展開によるところが大きいと考えられます。さらに、小中学校を通じて理解の程度に応じたきめ細かな指導や「見通し」や「振り返り」を位置付けた日常の授業改善、年間指導計画に位置付けた「チャレンジテスト」の効果的な活用、単元の終末に「まとめの時間」を設定した教育課程の改善・長期休業中の学習サポート、家庭との連携による学習習慣や生活習慣の改善等の着実な取組が各小中学校に浸透してきていることが挙げられます。

## 4 質問紙調査結果（児童生徒、学校）

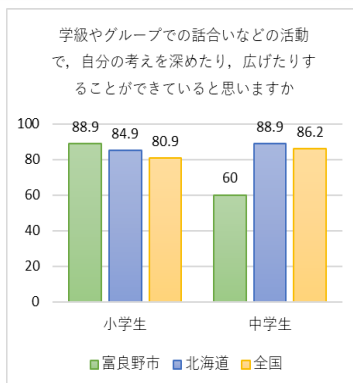
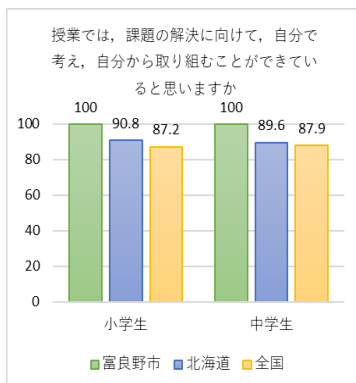
※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合です。

### （1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【児童生徒質問紙】



【学校質問紙】



◆「授業では課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では 82.0%、中学生では、74.6%です。全国と比較して小学生は高い値ですが、中学生では低い値です。全国調査の結果から、この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られています。

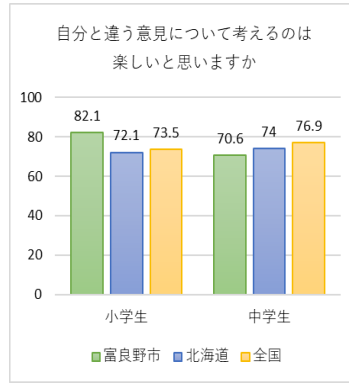
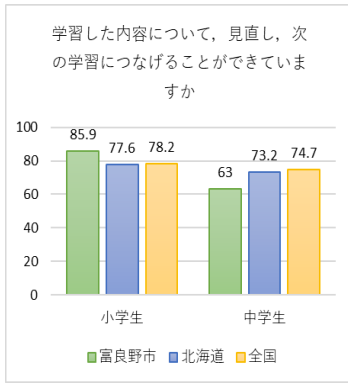
また、学校質問紙における同様の質問に肯定的に回答した小中学校の割合は 100%であり、全国調査の結果からもこの質問に肯定的に回答した学校ほど、全ての教科において平均正答率が高い傾向が見られました。

◆「学級の友達とも間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では 85.3%、中学生では、76.0%です。全国と比較して小学生では高く、中学生では低い値です。

◆「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という質問について、肯定的に回答した学校の割合は小学校では 88.9%、中学校では、60.0%です。全国と比較して小学校では高く、中学校では低い値です。特に中学校においては、今後も主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を推進していく必要があります。

◆個に応じた指導（個別最適な学び）の状況について、「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は小学生では 83.4%、中学生では、67.9%です。全国と比較して小学生は高い値ですが、中学生では低い値です。全国調査から「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒ほど、「国語、算数・数学の勉強が好きだ」と回答した割合が高い傾向が見られています。

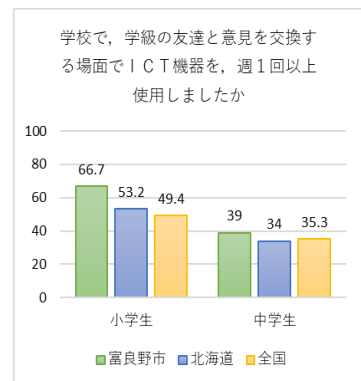
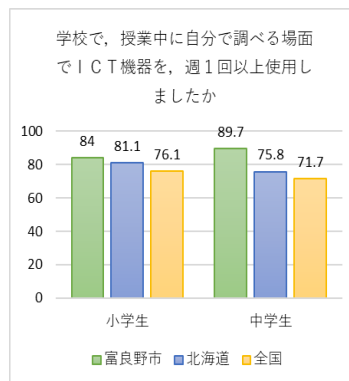
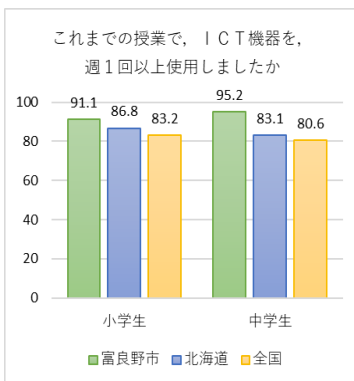
〔児童生徒質問紙〕



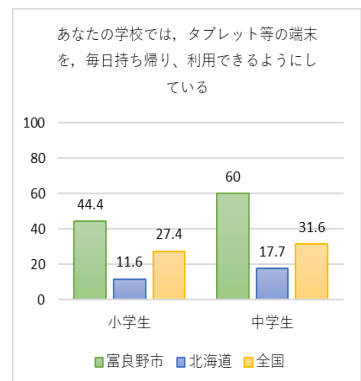
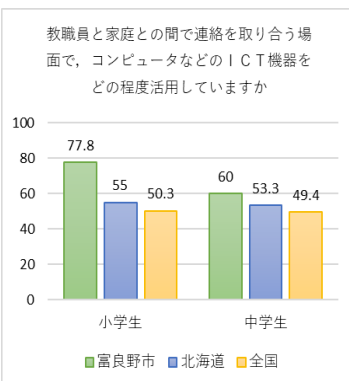
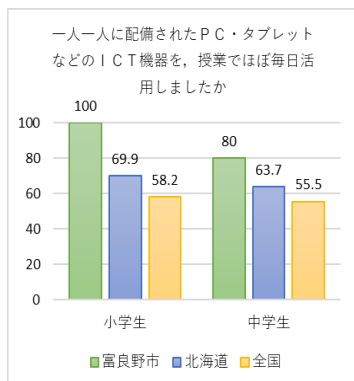
- ◆「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では 85.9%、中学生では、63.0%です。全国と比較して小学生は高い値ですが、中学生では低い値です。
- ◆「自分とは違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小中学生ともに 70%以上です。小学生では約 2 割、中学生の約 3 割は「自分と違う意見について考えるのは楽しいとは思っていない」ことを踏まえて、授業や話し合い活動を行う必要があります。

(2) ICTを活用した学習状況

〔児童生徒質問紙〕

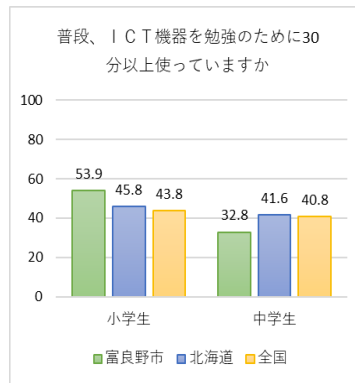
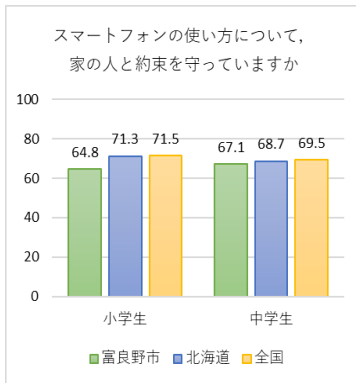
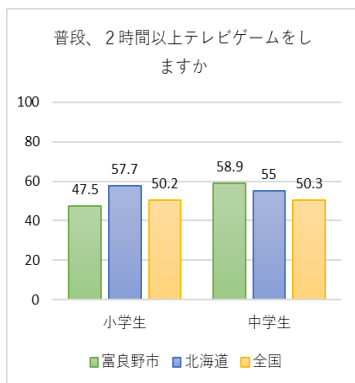


〔学校質問紙〕

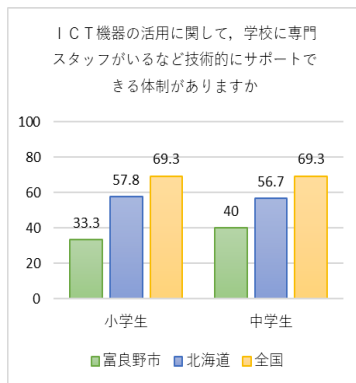
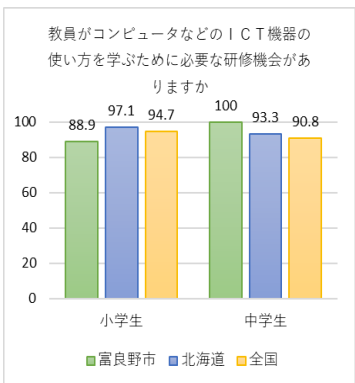


- ◆「これまでの授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問について、「週1回以上」と回答した小中学生の割合は90%以上です。児童生徒の活用について、全国と比較して高い値です。
- ◆なかでも、自分で調べる場面で週1回以上使用した割合は小学生では84.0%、中学生では89.7%であり、高い割合となっています。
- ◆「あなたの学校ではタブレット等の端末をどの程度家庭で利用できるようにしていますか」との質問について、毎日持ち帰り利用させている学校は、小学校で44.4%、中学校で60.0%であり、全国と比較して高い傾向にあります。

〔児童生徒質問紙〕



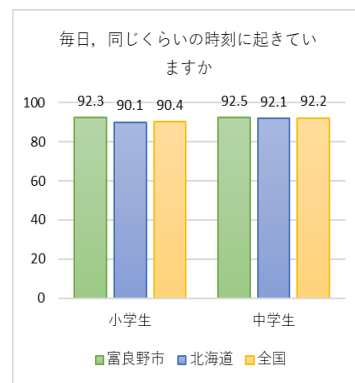
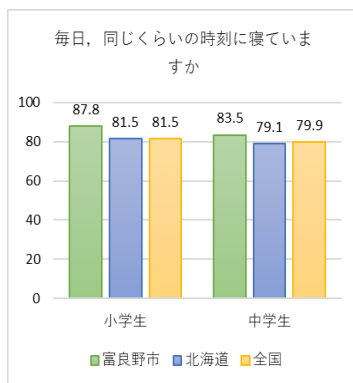
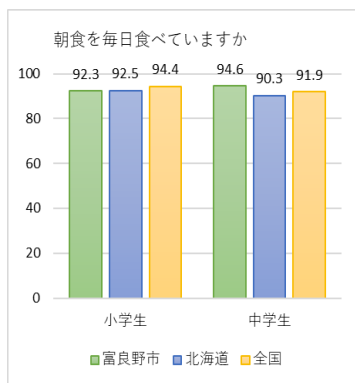
〔学校質問紙〕



- ◆ 普段（月曜日から金曜日）、2時間以上テレビゲーム（携帯式のゲーム、携帯電話、スマートフォンを使ったゲームを含む）をしている児童生徒の割合は全国と比較して高く、小学生で47.5%、中学生で58.9%です。全国的に1日当たりのテレビゲームの時間が増えるほど、各教科の平均正答率は低い傾向にあります。
- ◆ 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに全国と比較して低い値です。小中学生では30%以上、守れていない状況があるため、家庭でのルールや時間の使い方などを考える必要があります。
- ◆ 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」という質問について、30分以上と回答した児童生徒の割合は、小学生では、全国と比較して高い値であり、中学生では全国と比較して低い値です。
- ◆ 「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか」という質問について、肯定的に回答した学校は、小学校では、全国と比較して低い値であり、中学校では全国と比較して高い値です。市教委のICT活用研修、各学校の校内研修など、端末の効果的な活用について積極的に研修の機会を提供し、今後も継続していく必要があります。
- ◆ 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか」という質問について、肯定的に回答した学校は、小中学校ともに、全国と比較して低い値です。ICT機器の保守、点検等については、委託業者より説明会等を開催したり、電話や学校でのサポートをしたりしているところです。ICT支援員の活用など学校でのサポート体制について検討する必要があります。

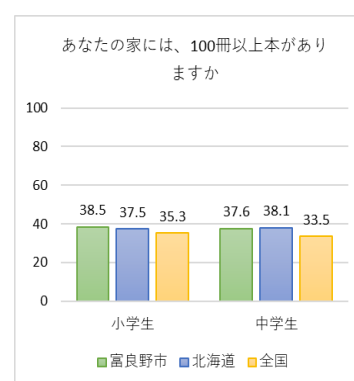
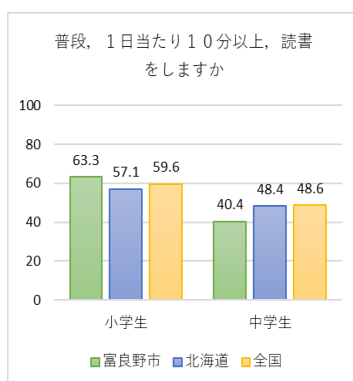
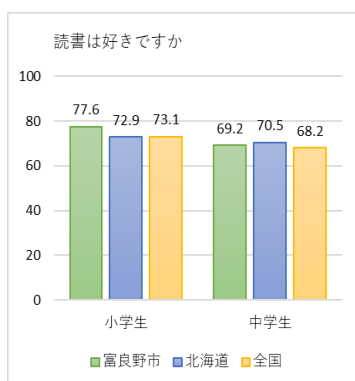
### (3) 基本的な生活習慣等

〔児童生徒質問紙〕



- ◆「朝食を毎日食べていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 92.3%、中学生で 94.6%です。全国と比較して小学生ではやや低く、中学生ではやや高い値です。このことから、朝食を毎日食べていない児童生徒がいることが分かります。学校においては、食に関する指導の充実を図るとともに家庭や地域と連携して食に関する体験活動や食のバランスなど、家庭への啓発も積極的に行う必要があります。
- ◆「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 87.8%・92.3%、中学生で 83.5%・92.5%です。いずれも、小中学生では全国と比較して高い値または同等です。中学生では、特に学習及び生活のリズムを整え、規則正しい生活を送れるよう望ましい生活習慣を身に付けさせるとともに、児童生徒自身が自分の生活を見つめ直し、主体的に改善できるよう学校と家庭が連携して支援していく必要があります。

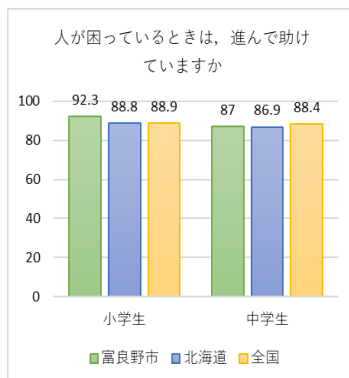
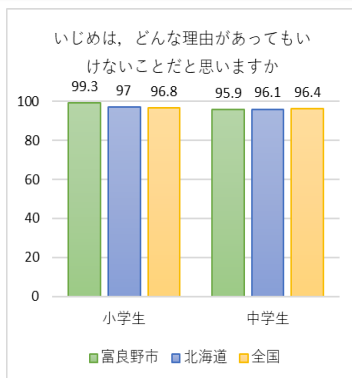
〔児童生徒質問紙〕



- ◆「読書は好きですか」との質問について肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 77.6%、中学生で 69.2%です。全国と比較して高い値です。
- ◆「普段、1日当たりどのくらい読書をしていますか」との質問について、10分以上と回答した児童生徒の割合は、小学生で 63.3%、中学生で 40.4%です。全国と比較して小学生では高く、中学生では低い値です。市内全小中学校に学校司書を配置し、学校図書館の機能の充実を図っています。今後も、児童生徒の読書習慣の確立に努めるとともに読解力の育成や情報活用能力の育成の場として学校図書館の活用を進める必要があります。
- ◆「あなたの家ではどのくらい本がありますか」との質問について、100冊以上と回答した児童生徒の割合は、小学生で 38.5%、中学生で 37.6%です。全国と比較して小中学生では、高い値です。学校においても学校司書による読書環境の整備、朝読書などの読書習慣の確立に努めていますが、学校と市立図書館の連携（ブックトラック）、読み聞かせボランティアとの連携などを図り、多様な読書活動の充実を図る必要があります。

#### (4) 規範意識

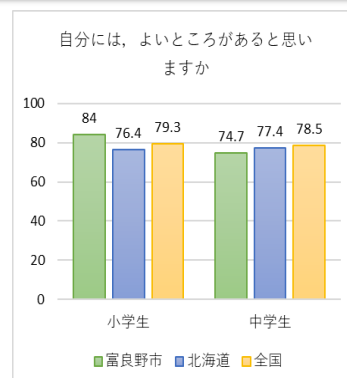
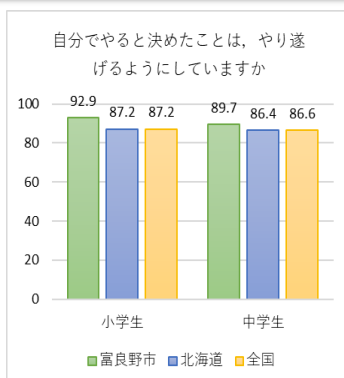
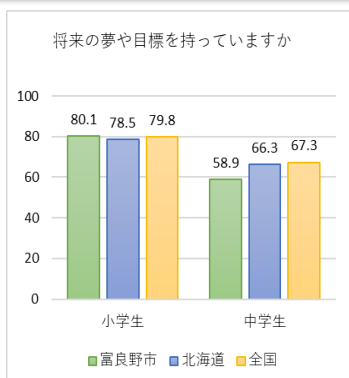
〔児童生徒質問紙〕



- ◆ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で 99.3%、中学生で 95.9%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と同等になっています。
- ◆ 「いじめは絶対に許されない」という意識を子どもたち一人一人がもつことが大切です。また、学校、保護者、地域、関係機関と連携し、いじめの未然防止の取組、早期発見、早期解消を図る必要があります。
- ◆ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で 92.3%、中学生で 87.0%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と同等になっています。

#### (5) キャリア教育・自己有用感

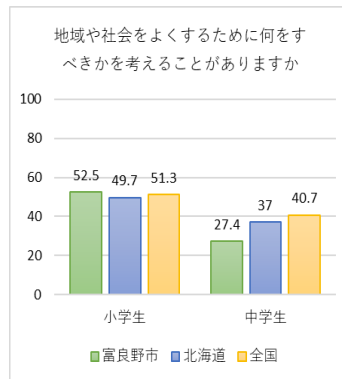
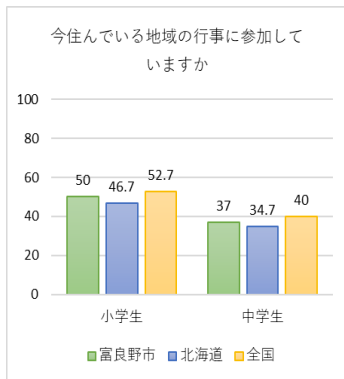
〔児童生徒質問紙〕



- ◆ 「将来の夢や目標を持っていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 80.1%、中学生で 58.9%です。小学生では全国と同等ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。キャリア教育の充実を図り、キャリア・パスポートの有効な活用により、自己有用感を高め、職業観、勤労観の育成を図る必要があります。
- ◆ 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 92.9%、中学生で 89.7%です。小中学生ともに全国と比較して高い値になっています。
- ◆ 「自分には、よいところがあると思いますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 84.0%、中学生で 74.7%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では、全国と比較して低い値です。自分で決めたことをやり遂げ、達成感や成就感を育むとともに自分の良さを自覚し、他人の役に立つ、他人に喜んでもらったという自己有用感の醸成を図ることができるよう教育活動全体の充実を図る必要があります。

## (6) 地域参加

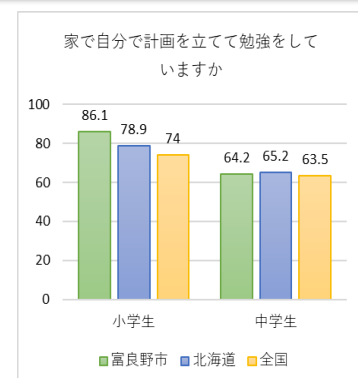
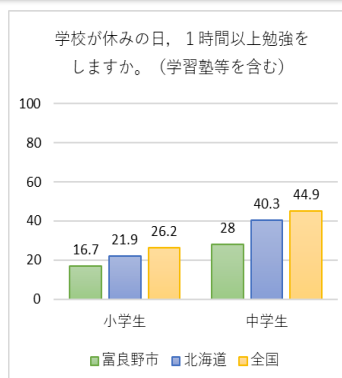
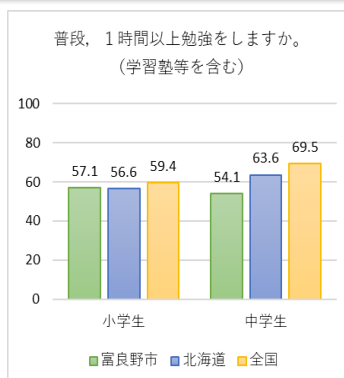
〔児童生徒質問紙〕



- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で50.0%、中学生で37.0%です。小中学生ともに全国と比較して低い値になっています。新型コロナウイルス感染症の影響で地域行事の中止が続いており、参加する機会が減少していることも一因と考えられます。
- ◆「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で52.5%、中学生で27.4%です。小学生では、全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値です。今後、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、子どもたちが地域住民と積極的に関わる機会を増やし、地域への理解・関心を深めていく必要があります。

## (7) 家庭での学習状況

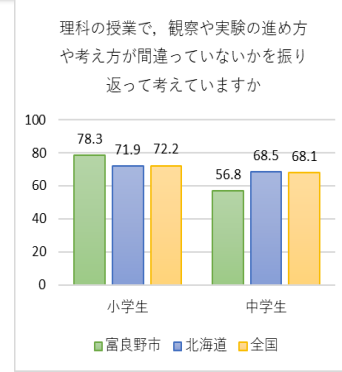
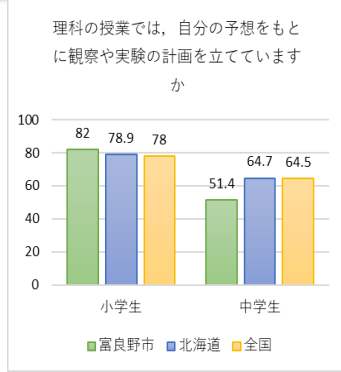
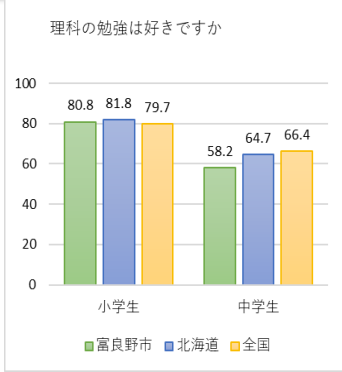
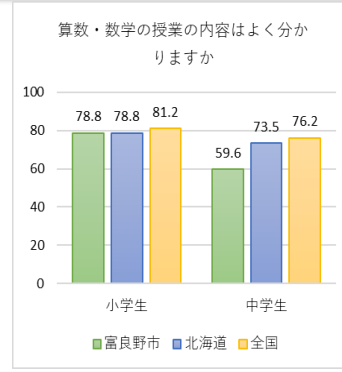
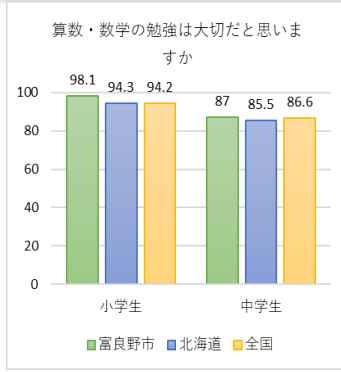
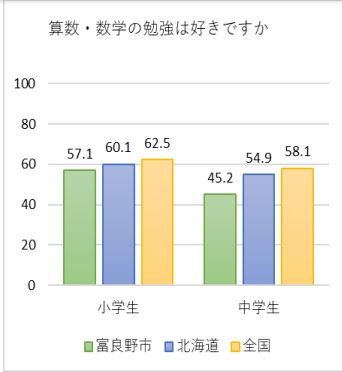
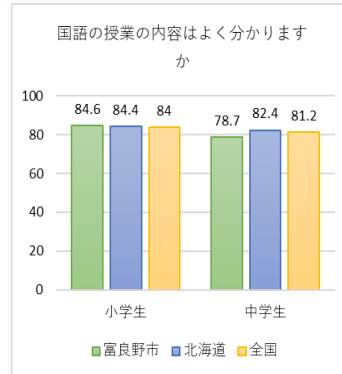
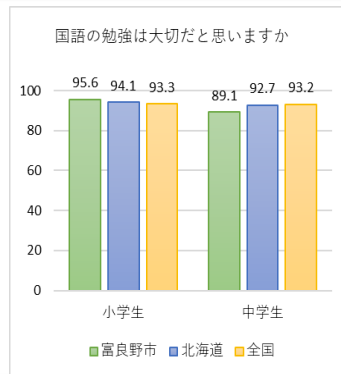
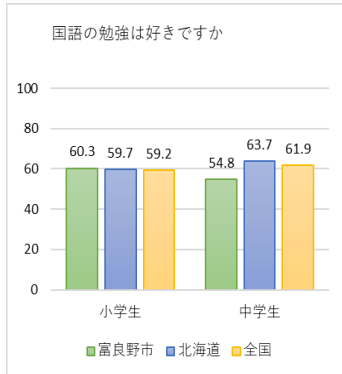
〔児童生徒質問紙〕



- ◆「普段（月曜日から金曜日）、1時間以上勉強をしますか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で57.1%、中学生で54.1%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。
- ◆「学校が休みの日、1時間以上勉強をしますか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で16.7%、中学生で28.0%です。小中学生ともに全国と比較して低い値になっています。毎日の生活習慣として、学習する習慣をつける必要があります。
- ◆「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で86.1%、中学生で64.2%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して同等になっています。中学生は、日頃より家庭学習の習慣を身に付けるとともに1週間の時間割に応じたスケジュールを見通して学習時間を確保し、計画的に学習できるよう支援する必要があります。

## (8) 各教科の学習状況

〔児童生徒質問紙〕



- ◆「国語の勉強が好きですか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で60.3%、中学生で54.8%です。小学生では、全国と比較して同等ですが、中学生では全国と比較して低い値です。
- ◆「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容は分かりますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では、全国と比較して同等ですが、中学生では全国と比較して低い値です。
- ◆今後は、国語の興味関心を高められるよう、言語環境を整え、主体的、対話的で深い学びの視点で授業改善を図る必要があります。
- ◆「算数・数学の勉強が好きですか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で57.1%、中学生で45.2%です。小中学生ともに全国と比較して低い値です。
- ◆「算数・数学の勉強は大切だと思いますか」「算数・数学の授業の内容は分かりますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で98.1%・78.8%ですが、中学生で87.0%・59.6%です。
- ◆今後は、算数・数学の興味関心を高め、日常生活の場面に即した問題から算数・数学の良さが感じられるよう工夫し、主体的に学習に取り組み、分かったことを実感できるよう授業改善を図る必要があります。
- ◆「理科の勉強が好きですか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で80.8%、中学生で58.2%です。小学生では全国と同等ですが、中学校では全国と比較して低い値です。
- ◆「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で82.0%、中学生で51.4%です。
- ◆今後は、理科の興味関心を一層高められるよう、児童生徒の学び文脈を大事にして自然の事物・現象から課題設定、実験計画を立て、結果を分析する問題解決型の授業改善を図る必要があります。



## 5 改善のポイント

学校では、子どもたち一人一人の学びをしっかりと支え、  
誰ひとり取り残さない教育を目指します

- 学校全体で学力向上に向けた取り組みを組織的に推進していくため「学力向上推進委員会」を組織し、子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図っていきます。
- 1時間ごとの授業を大切にし、授業ごとに身に付けるべき資質・能力を明確にし、単元や題材などのまとまりを見通して到達させるための手立てを講じていきます。
- 根拠に基づいて考えを書いたり話したりする場面を積極的に取り入れた授業を工夫していきます。
- 授業中に子どもの理解の状況を丁寧に見取り、実態に即した意図的な働きかけをしていきます。
- 児童生徒が「分かった、できた」を実感できるように授業の最後に「まとめ」と「振り返り」を位置付けていきます。
- 学校での学習の効果を高めるため、児童生徒の家庭学習の状況を的確に把握し、児童生徒や保護者に対して適切に支援するとともに、学習内容の確実な定着や家庭での学習機会を確保するための家庭学習や「課題」を設定します。

## 6 保護者・地域の皆様へ

子どもの学力については、学校が責任をもって取り組んでおり、教員の指導力向上に向け授業公開や授業研究等、全力を挙げて推進しております。この大前提を押さえた上で、学校での学ぶ力を支えると共に、もっと大きな意味で、大人になっても自ら学んでいくための『土台』を、よりしっかりとしたものにするには、学校と家庭が力を合わせて、「家庭学習の習慣をつけるとともに、子どもの学びに対する興味や関心を広げること」が極めて大切です。

家庭学習を定着させるには、「学び」の土台となる「早寝早起きをする」「挨拶をする」「家事を分担する」などの家庭での教育が重要です。

進んで学ぼうとする力は、『子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日学習に取り組む』ことで育ちます。

大人はもう一度足もとを見直し、決してその時々気分や感情に流されず、大人としての責任を自覚して、家庭学習の充実を目指しましょう。改めるべきことは改め、当たり前のことは、当たり前のこととして推し進めるとともに、家庭を学びの環境に整えていきましょう。